

令和3年7月2日(金)・3日(土)

重要文化財「清水寺観音堂」保存修理現場見学会 資料

本日参加のみなさまへ、お願いがあります!!

- ① 新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用をお願いします。
- ② 工事現場への立ち入りとなるため、必ず<u>ヘルメットを着用</u>してください。 着用の際は受付で配布したペーパーキャップをヘルメットの内側に被ってください。
- ③ 足場の上は大変狭くなっています。また、大変危険ですので作業をしている職人の後ろを通らないようにお願いします。
- ④ 写真撮影は基本的に構いませんが、個人で楽しむ範囲での利用としてください。 SNS 等での写真画像の公開は、防火・防犯上の利用により固くお断りします。

主催/共催 宗教法人清水寺/八戸市教育委員会社会教育課

協力機関 公益財団法人文化財建造物保存技術協会(設計監理担当)、有限会社熊谷産業(工事担当) 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館







1. 重要文化財「清水寺観音堂」とは?

天正9年(1581)に建立された青森県内最古の木造建築です。禅宗様の中世的仏堂として、東北地方北部の貴重な建造物であることから、昭和55年に重要文化財(建造物)に指定されました。糠部三十三観音巡りの2番札所として現在も信仰を集めています。

POINT

なぜ「建立年」が分かるの?

清水寺に残されている<u>棟札</u>の中に天正9年と書かれたものがあり、それを根拠としているから。 **棟札**…棟上げのときに、工事の由緒・年月日・建築者・工匠などを記して棟木に打ちつける札。 清水寺には多くの棟札が残されており、中でも古い「天正9年」「慶長9年」「慶長18年」の3 枚は、観音堂とともに"**附指定**"されています。

禅宗様って?

鎌倉時代に中国から伝わった建築様式のこと。

2. どんな建物なの?

桁行三間(柱含めて約6.5m)、屋根の形式は宝形造となっており、ほぼ真四角の建物です。屋根は茅葺き、屋根の頂上には芝棟が造られています。平面積42.445 ㎡、屋根面積186.000 ㎡。地上から茅葺屋根の軒先までは約4mあり、芝棟部分も含めると全体で約9.7mの高さがあります。

宝形造…4枚の屋根がすべて三角形になっている造りのこと。

3. これまで何度修理されてきたの?

天正9年に造営されてから今日まで、大規模な修理は5度行われています。過去の修理歴は、清水寺に残されている棟札や、昭和57年から58年にかけて行われた観音堂の全解体修理の際に行った痕跡調査によって判明しました。

第1次改造 再興:享保7年(1722) 半解体修理

第2次改造 修覆:文化13年(1816) ※修覆=修理のこと

第3次改造 修覆:明治20年(1887)

第4次改造 屋根改築:昭和3年(1928) 茅葺から鉄板葺の屋根に改築、小屋組修理

第5次改造 全解体修理:昭和57年(1982)~昭和58年(1983) 屋根を茅葺きに戻す

第6次改造 屋根葺き替え:令和2年(2020)~令和3年(2021)

このほかに、簡単な部分修理や屋根の葺き替えもたびたび行われてきました。

4. 今やっているのは?

前回の修理から約40年が経ち、茅葺き屋根の劣化が著しく、建物自体へ深刻な影響を及ぼす危険性があるため、「国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金」(文化庁)を活用して、「重要文化財清水寺観音堂保存修理事業」として令和2年度から保存修理工事をしています。

5. 茅葺屋根はどうやって修理するの?

今回の保存修理工事のメインは、茅葺き屋根の葺き替えです。一般的に茅葺屋根は20年前後のスパンで葺き替えが必要となりますが、観音堂は耐用年数を大幅に過ぎているため、早急に葺き替える必要があります。 茅葺き屋根の葺き替えは、次の工程に沿って行われています。

工程	内。容
①材料集め	11月頃から3月にかけて屋根の材料となる茅(葭)を集めます。今回の修理では宮城県石巻
	市北上川流域の茅場で刈り取ったものを使用しています。
②屋根解体	観音堂周囲に足場を仮設して、屋根に葺かれている茅材を全部取り外し、屋根材の状態を確
	認します。まだ使える材料は選別して再利用します。(3 月下旬~4 月)
③木部補修	腐朽箇所を交換材料(木材)で修理します。材料には「令和三年度修補」と焼印を押し、い
	つの修理で交換した材料か分かるように印をつけます。(4月~5月)
4野地補修	屋根下地部分の縄を締め直して、丸太に葭簀を固定します。(6月)
⑤軒付け	軒付けとは屋根軒先の厚みを定める葺き始めのことで、屋根全体の仕上がりを左右する重要
	な仕事です。今回の修理では、軒先は茅を3段重ねにして、厚さ約 80cm から 90cm になる
	よう調整しました。(6月)
6平葺き	軒付けをした上から屋根の頂上までの屋根面を葺き登っていきます。下地の上に茅を並べ、
	押鉾で押さえ、下地に縄で縫い付けて固定していきます。(6月下旬~)
⑦芝棟作り	屋根の頂上部分を「芝棟」で葺き納めします。(7月下旬~)

6. 文化財の保存修理とは?

清水寺観音堂のような歴史的建造物は、数十年から数百年の周期で修理を行うことで、長い年月にわたり受け継がれてきました。こうした文化財は、日本固有の文化により生み出されたもの。修理する際は、つくられた時代や地域、環境、そして材料や技術を詳細に調べ、検討を重ねて行われます。文化財自体を後世へ伝えていくと同時に、修理するための技術や技能もまた守り伝えていかなくてはなりません。そのため、文化財保護法によって、こうした技術・技能を「選定保存技術」として選定し、その技術・技能の保持者や保存団体を認定しています。文化財はこうした選定保存技術の保持者や保存団体の職人たちの手によって修理されます。

POINT

選定保存技術って?

日本固有の文化により生み出され、現在まで保存・継承されてきた文化財を確実に後世へ伝えていくために、文化庁では文化財の修理技術やそれに用いられる材料及び道具の製作技術などを「選定保存技術」として選定し、その技を保持している個人または技の保存事業を行う団体(企業など)をそれぞれ保持者及び保存団体として認定して、保存を図っています。

どんな技術があるの?

選定保存技術は全部で77件。清水寺観音堂の修理には、「**建造物修理**」「**茅葺**」の保存団体及び職人が携わっています。

※選定保存技術については、文化庁 HP に詳しく紹介されています。

もっとくわしく茅葺を知りたい人のために・・・

(『全国社寺等屋根工事技術保存会資料』より)

茅(カヤ)

茅には小茅(カリヤス類)と大茅(ススキ類)があり、昔は小茅を育てる茅場が多く見られました。また、水辺に生える葦(アシ)(葭/ヨシとも言う)も屋根材に使用されます。青いうちは腐りやすいので、秋から冬に、枯れてきた黄ばんだものを刈り採ってきます。刈り採った後は、十分乾燥させなければならないので、冬の間は野積みにして乾かします。



刈り込んだ茅の野積



茅を天日に干し乾燥させる

棟仕舞(むねじまい)

太平洋戦争以前では、日本各地で一般的に見られた屋根材ですが、戦後、農村の人口が変化し共同作業として行う葺き替えができなくなったことや、スギなどの木材価格が一時的に高騰して茅場が人工林化したことなどから、急激に姿を消しました。

棟仕舞(屋根の頂上の稜線 {平川の2つの屋根面を分ける線} となる棟を風雨から守る仕組み)は、地方色が豊かであり、職人独自の熟練した技も駆使されています。



















茅葺きの技術

茅葺の方法は、茅の根元を下に向けて葺く「真葺」(まさぶき)と、穂先を下に向けて葺く「逆葺」(さかぶき)があります。日本の茅葺屋根は、真葺が一般的です。逆葺は作業が容易で薄く葺いても雨仕舞いは良い反面、耐久性が悪く、限られた建物にしか用いられません。

茅の材質を見て、軒用、棟用、隅用と選別し、使いやすいように切断、結束します(「茅拵え」と言う)。 軒の厚みをつける軒付け、屋根で一番重要な水切り、屋根の形を作る平葺、平葺きの終わりの箇所から雨漏れを防ぐ棟仕舞いと、下から上に積み上げていきます。平葺の固定方法は、茅を50cm前後の厚みにし、長い竹を横に置き、屋根野地の垂木または「えつり竹」(茅が落ちないように垂木の上に横に並べた竹)に縄で結んで挟み込みます。最後に鋏を使って、葺くときとは逆に上から下へと刈り揃え、屋根全体の形状を整えます。

<茅葺の流れ>



⑧軒の刈揃え

⑦大バサミによる刈込み